なんこく探けん隊

駅でもないのに？　篠原こ線様を北に越えると、左写真のような駅名を記した看板があります。プラットホームを思像させるこのしゃれた看板、実は理髪店の看板なのです。

１０年以上前の開店時に、どうせなら目立つ看板を、ということで作られたものです。理髪店のご主人によると、奥さんがなかなかのアイディアマンで、色々楽しい企画を提案してくれるとか。この看板も奥さんのアドバイスで、ちゃんとＪＲ後免駅までサイズを測りに行ったそうです。現在の看板は、実は２代目。一度車に当てられて壊れたそうですが、やっぱりまた同じ看板にしたそうです。

こんなユーモアいっぱいの看板がたくさんできたら、きっと市内をぶらぶら出歩くのが楽しくなる事でしょう。

元気・やる気・本気のまちづくり

土佐の南国ルネサンス構想 ②

新南国市総合計画が振興計画審議会（会長・喜多村勇高知医科大学長）で検討されています。南国市の将来を見通すためには、まず市の現状と課題を知ることが大切です。

若者層が県外へ流出

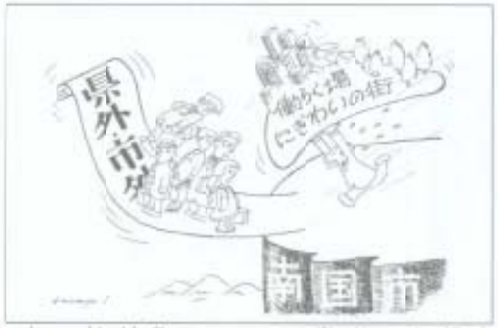
▼――私たち南国市の現状と課題は、どうなっていますか。

人口が大都市に集中して過疎・過密の現象は解決されていません。そんな中で高知県の人口も減っています。南国市も一九八五年（昭和六十年）四万七千五百五十四人をピークに、九十年（平成二年）には四万六千八百二十三人で五年間に七百三十一人（一・五％）減少しています。

特に、若者層の零歳～十四歳が千百八十七人（一二・六％）の減、十五歳～三十九歳が千七百四人（一〇・〇％）の減で、若い世代の県外・市外への流出が深刻ですね。

▼――少子・少産社会といわれていますから、人口増はむつかしいですね。

ただ、南国市の場合は十市パークタウンなどの住宅団地の造成や企業立地などで増加傾向です。住民基本台帳の人口は現在四万八千二百六十一人ですから、今年の十月一日に行われる国勢調査では“人口増”が見込まれています。



▼――基幹産業である農業は県下一の高知平野・穀倉地帯ですが……。

就業人口・生産販売高は今でも県下一です。しかし、農畜産物の輸入自由化で課題は多いです。土地基盤の整備（ほ場整備など）の遅れや高齢化・後継者不足・労働力の確保など、深刻な問題です。また、製造業も農業の低迷による衰退、円高不況など産業構造の変化、景気の変動に大きな影響を受けています。

地場産業の育成と共に先端産業や産業業務施設など、企業誘致が大きな課題です。

望まれる基礎体力づくり

▼――二〇〇〇年には六十五歳以上の高齢者の占める割合が四人に一人という“高齢化社会”に突入しますね。

そうです。若年層の県外・市外への転出ともあわせて、高齢化の進展は激しいものがあります。若者の働く場をつくって“流出”に歯止めをかけることが大切ですが、やはり、高齢者や障害者が健やかな生活を送れる社会の実現。福祉サービスの充実が求められています。また、健康や福祉は、単に行政だけにおまかせということでなく、市民と行政が一体となった取り組みが重要です。

▼――“ボランティア新時代”ともいわれていますね。

いじめや体力の低下など新たな課題もあります。義務教育での基礎学力・生活習慣も課題です。核家族化・少子化・情報化時代のなかで“生涯教育・学習”の基礎づくりが求められています。平成十四年の高知国体にむけての対応も大切ですね。

▼――南国市は陸・海・空の広域高速交通の拠点にありながら“市の顔が見えない”といわれますが……。

そうなんです。だから、後免町市街地を中心とした再開発による都市機能の整備が必要です。にぎわいのある街がなければ若者の定住も困難ですからね。また、就労の場も少ないですから生産基盤・生活基盤の基礎固めが大切です。

子や孫の時代を見通した公共投資“基礎体力づくり”が求められています。

▼――それでは次号は、南国市の個性と特性をさぐってみたいと思います。

湯治場風の廃家屋を

我が家にも７８歳の母がいる。まだまだ元気で、自転車に乗り、出歩くこともできる。でも、わが家の住まいも現代風。はたして高齢者にとって幸せか疑問に思う。そこで提案します。

廃家屋を再利用して、昔ながらの土間の台所、かまどを築き、マキの五右衛門風呂、囲炉り、火鉢、庭先きでは鶏の飼育――。このような昔ながらの農家の家屋を建て、友人同士で食事をつくり、談笑できるような湯治場風の施設が格安で利用できるようにしては？　　沢村雅尚（西島）

アイディアポストより

●いま部落は、そして……。

同和教育シリーズ

手紙

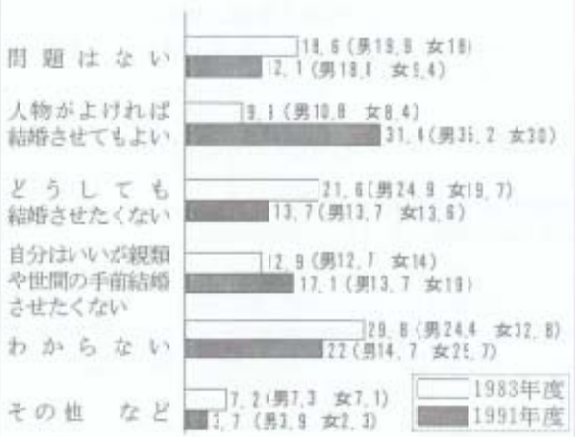
①私の好きなミツルさんは
おしいさんから
お店をもらい
二人一緒に暮らすんだと
うれしそうに話し
てたけど
私と一緒になるの
だったら
お店をゆずらない
と言われたの
お店をゆずらないと
言われたの
死のうとまで彼は言った
だからすべてをあげたこと
くやんではいない別れても
くやんではいない別れても

②私は夜の幸せのため
身を引こうと思っています
二人一緒になれないのなら
もしも差別がなかったら
好きな人とお店がもてた
部落に生まれた
そのことの
どこが悪い
なにが違う
つらい手紙になりました
だけど私は書きたかった
だけど私は書きたかった

一九七〇年代初め、兵庫県の中島かず子さんが自ら受けた結婚差別を「手紙」という題で新聞に投書し、その後、自殺する事件がありました。

この報道に接したフォークソング歌手・岡林信康さんは、社会に対する強い怒りと、彼女のくやしさや悲しさを人々に伝えようと、この「手紙」という歌をつくりました。かなり流行しましたのでご承知の方もいると思います。

こんな悲しい事件は、私たちの住む南国市では、もう過去のものでしょうか？

市民・県民の意識は？④

もし、あなたのお子さんが結婚するという状況になったとしたら、相手が同和地区出身であるかどうかを問題としますか。（数字は%）